

「鉄道地震工学研究センター 第1回アニュアル・ミーティング」を開催しました

平成27年3月31日
公益財団法人鉄道総合技術研究所

公益財団法人鉄道総合技術研究所（以下、鉄道総研）は、「鉄道総研 鉄道地震工学研究センター 第1回アニュアル・ミーティング（Annual Meeting）」を下記により開催いたしましたのでお知らせします。

鉄道総研は、鉄道地震工学に関する研究リソースを「集約」とするとともに、鉄道地震工学の「拠点」となることを目的に、鉄道地震工学研究センターを2014年4月に設置しました。本センターの設置から約1年が経過し、本センターが行ってきた活動や今後の展望等をご紹介する場として、アニュアル・ミーティングを開催し、鉄道事業者をはじめ官公庁、大学、一般企業から142名の方々にご参加頂きました。

第1回目となる本年のアニュアル・ミーティングでは、「地震時の鉄道の早期被害把握・復旧と情報共有・活用の意義」をメインテーマとし、鉄道地震工学研究センターの「情報拠点化」に関する活動成果の1つとして、2015年度から配信予定の『鉄道用地震情報公開システム』について紹介しました。本システムは、地震発生直後に得られる公的機関の地震情報を、鉄道事業者用に即時分析して公開するものです。

また、基調講演「ひと・こと・もの・ば」では、名古屋大学減災連携研究センター長の福和伸夫教授が、具体的な事例をもとに、地域の防災拠点活動の考え方等について講演されました。

さらに、東京大学地震研究所の堀宗朗教授をコーディネーターとしたパネル・ディスカッションでは、メインテーマについて、鉄道事業者、大学、研究機関の専門家のパネラーにフロアも交えた活発な討議が行われ、地震に関する情報を質・量ともに十分に提供できるしくみの構築が重要である、等の意見が交わされました。



専門家のパネラーと会場も交えたパネル・ディスカッション

記

1. 開催日時：平成27年3月23日(月) 13時30分から17時30分
2. 開催場所：東京国際フォーラム・ホールD7（東京都千代田区丸の内）

3. プログラムと講演内容

- 開催挨拶 鉄道総研 理事長 熊谷 則道
- 鉄道地震工学研究センター活動報告
「鉄道地震工学研究センターの役割と取組みについて」
鉄道総研 鉄道地震工学研究センター長 室野 剛隆
「鉄道用地震情報公開システムについて」
鉄道総研 鉄道地震工学研究センター 地震解析研究室長 山本 俊六
- 基調講演
「ひと・こと・もの・ば」
名古屋大学減災連携研究センター長・教授 福和 伸夫 様
- パネル・ディスカッション「地震時の鉄道の早期被害把握・復旧と情報共有・活用の意義」
(コーディネーター)
東京大学地震研究所 教授 堀 宗朗 様
(パネラー)
東日本旅客鉄道株式会社 構造技術センター 所長 野澤伸一郎 様
首都圏新都市鉄道株式会社 参与 北村不二夫 様
防災科学技術研究所社会防災システム 研究領域長 藤原 広行 様
岐阜大学工学社会基盤工学科 教授 能島 暢呂 様
鉄道総研 鉄道地震工学研究センター長 室野 剛隆
- 閉会挨拶 鉄道総研 専務理事 市川 篤司

4. 熊谷理事長挨拶 要旨

鉄道総研が、昨年4月に鉄道地震工学研究センターを立ち上げてもうすぐ1年になりますので、これまでの活動内容と、鉄道総研が行う地震情報の公開についてご紹介する場として、この第1回のアニュアル・ミーティングを開催いたしました。本日は多数の皆様にご来場いただき、大変嬉しく思っております。

さて、地震に対しては耐震対策や日頃の備えが大事なことは言うまでもありません。しかし、いざ地震が起きたときの情報発信、これも非常に大切だと思います。こういった情報は、ただ発信すればよいというものではなく、情報の質（クオリティ）、量（クオンティティ）、タイミング、そして、誰に対して（トウプーム）、すなわち2Q2Tが大変重要で、そのためには、ここにお集まりいただいた鉄道事業者をはじめとする皆様の御協力が不可欠です。本日は、講演者、パネラーの方だけでなく、ぜひ会場の皆様からも忌憚のないご意見を頂き、有意義な時間となれば幸いです。



開会の挨拶を行う 鉄道総研理事長 熊谷則道